

子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014 第20回 ISPCAN 世界大会・第20回 JaSPCAN 学術大会 〈(公財)資生堂社会福祉事業財団 スポンサーセッション〉 参加報告書

「傷ついた子どもの育ちと回復のために

～海外研修での学びを活かした施設における治療的ケアの取り組み」

コーディネーター：太田一平 (NPO STARS 代表理事)

シンポジスト：山本 朝美(20期：乳児院)

青木 義匡(35期：児童養護施設)

海田 泰隆(35期：母子生活支援施設)

瀧井 有美子(37期：情緒障害児短期治療施設)



2014年9月14日(日)、名古屋で行われた子ども虐待防止世界会議に参加。シンポジウムを開催しました。

児童相談所が対応する虐待相談件数が増加傾向にある中、施設養護を中心とした日本の社会的養護の現場では、子どもに「あたりまえの生活」を保障し、できるだけ家庭的な環境下で一人ひとりの育みを丁寧に進める「ケアの個別化」が求められています。一方で、日々の安心した生活の中で子ども達の育ちを支え、回復と自立を目指す専門的できめ細やかな治療的ケアは、日本の施設養護の特長であり強みでもあります。今回のシンポジウムでは、この“強み”に焦点を当て、日本の施設養護の現場で活躍するSTARSメンバーが、各々資生堂児童福祉海外研修での学びを活かし、日々どのように治療的ケアの実践を行っているかを紹介しながら、その役割と可能性そして更なる充実に向けた課題についての考察を発表しました。

今回の発表は、資生堂児童福祉海外研修に参加したNPO STARSメンバーのうち、訪問した国や研修内容、施設種別や施設職員としての経験年数など、さまざまな枠を超えた4名のメンバーが、子どもを取り巻く現状と取り組み、またそこから見える可能性や課題について発表しました。会場には同時通訳も入り、国内外の100人近い聴講者がいました。質疑応答も活発に行われ、発表者とフロアが一体となって、日本の施設養護の可能性・・・具体的には、子どもの育ちの保障と予防的支援のあり方や、地域との協働・多分野協働について意見を交えることができました。

2013年のIFCO大阪世界大会参加に引き続き、NPOSTARSが発足して2年目にして2回目の世界規模の大会への参加となった今回は、NPOSTARSならではのユニークな問題提起について、社会の関心の高さを学ぶ機会ともなりました。今後もこの経験を活かし、すべての子どもの幸せを守るために、発信力・実践力を兼ね備えたNPO STARSとして成長していきたいと思っております。



NPO STARSのISPCAN 名古屋世界大会のブースは、32期 田村薫さんに担当して頂きました